

R3「学力向上対策3つの提言」推進拠点校の取組 及び 成果と課題 ①

(大分市立大在中学校)

重点的取組 【提言1】

学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底

<学力向上に向けて重点的取組に上げた理由>

- ・自分の考えや気持ちを伝え合う活動などのアウトプットを苦手とする生徒が多いため
- ・2年生の英語コミュニケーション能力の二極化を防ぐため

取組の具体

- 学び合いを取り入れた授業の推進
 - ・アウトプットする場面のある授業づくり。
 - ・分かったことや考えたことなどを説明したり書き表したりするなど学びを整理できる活動を取れ入れる。
- 2年生英語科における習熟度別指導の実施
 - ・5、10、1月クラス希望調査を実施し、2学級を3クラス(ベーシック、レギュラー、アドバンス)に分け、同じ評価規準を設定しB評価に達する手立てを講じる。
 - ・教科部会における単元計画・教材作り(ICT含む)。
 - ・評価規準及び評価場面、方法の設定。
 - ・単元の中で一斉授業と習熟度別授業を単元の導入、中間、まとめなど単元の内容に応じて使い分ける。



成果と課題

- ・研究の柱を3つ(I アウトプット II ICTの活用 III 評価場面と方法)に定め、互見授業や提案授業の中で検証を行い、特に「振り返り」の質の向上につながった。
- ・2年生英語テストの全体平均の推移は1学期末テスト61.4点、夏休み課題テスト61.7点、2学期中間テスト64.2点、2学期期末テスト66.9点と平均点の上昇と低学力層生徒の減少、中間層の向上などの成果が見られた。
- ・習熟度別授業生徒アンケートから「授業内容が分かりやすくなった」、「授業形態が自分に合っている」と回答した生徒が選択肢の中で一番多かった。



